



「金蘭千里スピリッツ」を 未来に繋いでいく

尚友会会長

岸本 大三郎

創立六十周年を迎え二〇二五年十一月七日に記念式典が挙行されました。

あと数年の内に卒業生は一〇、〇〇〇名を超える見込みです。卒業生が活躍する分野は政界、評論家、行政機関、企業、商社、銀行・金融、法曹界、教育・福祉、マスコミ、など多岐に渡っています。最近の傾向としては医学系(医・歯・薬・看護など)への進学者の比率がさらに増加し全進学者の概ね二十五%以上を占めるとみられます。

「週間ダイヤモンド」(二〇二四年十一月三十日号)で「わが子が伸びる中高一貫校&塾」として「偏差値五十五未満の中高一貫校の国公立大学医学部への合格者数比率上位ランキング」で全国六位と紹介されました。金蘭千里は入学偏差値に依存せず「入学後に伸びる学校」という認識に変化し、(学力・進路・人間形成)の三位一体の成長が期待されています。

◆六十年のあゆみ

【一九六五～一九九五年(設立三十周年)】

(累計卒業生四七〇七人)

「クラス三十人編成、男女共学の中高一貫校、朝の二十分テスト」

【一九九六～二〇〇五年(設立四十周年)】

(累計卒業生六二八四人)

「中学入試前期・後期制、習熟度別授業編成」、「英国研修」

【二〇〇六～二〇一五年(設立五十周年)】

「金蘭会学園から分離独立、受験回数四回に」

【二〇一六～二〇二五年(設立六十周年)】

(累計卒業生九六八八人)

「クエストカップ」参加「アダプティブラーニング(AI学習)」、「探求部」

ホームカミングデイは「学園文化祭」(十月四日予定)のコロナ行事として実施します。皆さんに今の金蘭千里学園の情熱とエネルギーを感じて頂くことが目的です。

昨年に続いて「全体懇親会」を今年は十一月十三日(金)に予定しています。参加者拡大に向けて「早割」特典もあります。ご友人の皆様に「早割」をお声掛け頂き、ホームページからお申込み頂くようお願いいたします。



もうすぐ、一万人

金蘭千里学園 理事長・学園長

辻本 賢

昨年十一月、金蘭千里高等学校・中学校創立六十周年記念式典を厳かに挙行了しました。その際、尚友会から過分のお祝いを賜り、厚くお礼を申し上げます。

今春、卒業生男子五三八二人、女子四三〇五人、合計九六八七人の多くを数え、一期生一九七人を送り出した私としまして、深い感動を覚え、支えていただきましたすべての皆様に心から感謝を申し上げます。

そして、中一生徒男子七四人、女子二三人、合計二〇六人を迎え、「お早うございませう」の声で清々しい朝を楽しんでいます。その中一生徒に、学年主任の「先生はちまち話したいでしょう」から理事長講話を再開しました。

先ず、(一)教育は強制に始まる。それは二つの道を辿る。嫌になつて止める人と段々面白くなつていく人。(二)教育は治療に似ている。医者は患者を「癒す」。しかし謙虚な医者には、病人が自らを治す力に手を貸したただけだ」という。人間は自らを教育するだけである。他人は(親と教師といえども)、それに少し力を貸すだけということもできる。

そして、(三)私の教育観を圧縮して漢字を軸に質問。

① あいつ(書き取り)② 育(送り仮名)③ 抜く(読み)④ 堪える(読み)⑤ 慈悲

(4) 答え

① 挨拶は押す、拶は押し返す。だから、挨拶は自分から。

② 育つ。金蘭千里であなただけが育つ。(そだてる、はぐくむ)

③ しごく。和裁で仕上げるしごく。目指す本来のもの、姿に仕上げるため。

④ こらえる。(たえる)

⑤ 慈。頑張る。悲。何も言わないで、傍に寄り添う。

難しかったとの感想。それでも、食堂前で、大階段の上から、廊下の曲がり角で、「理事長先生」の声掛けに応える私を笑顔にさせる。

振り子は、振り切つて元に戻る。常に建学の精神に立ち返ること忘れてはならない。在校生を中心に、父母と教員が向かい合う横の関係、卒業生と本校を志望する児童の縦の関係、それらを包含するコミュニティにおいて、目の前にいる生徒の能力を引き出し、生きる力に高める学校であり続けることをお誓いしますと共に、卒業生の皆様には引き続き本校教育に御理解と御支援をお願いいたします。



ご挨拶

金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

皆様、日頃よりお力添えをいただき誠に有難うございます。本校は毎朝の二十分テストや、一クラス約三十人の少人数教育など創立以来の伝統を守りつ、創立五十周年改革で、新制服の制定、クラブの大幅増設、文化祭・体育祭の充実、キャンプ・自然研修の充実、生徒による学習記録の習慣化など大きな改革を実行し、その後も学校のICT化、各種プレゼンテーション大会への参加など、新たなチャレンジを続けてきました。

この度迎えた創立六十周年では、さらなる多様性の時代に調和しながら、個性性、自律性、そして社会性を磨く教育を進めて参ります。具体的には、一昨年度より中三・高一対象の英数における個別最適化学習すなわちアダプティブラーニングを、また、指導のレベルを定めた新たな生活指導方針である金蘭千里五則を、そして、①スノーキャンプ(スキー・スノボ合宿)、②医療ワークシヨップ、③英語インテンシブコース、④プログラミングキャンプ、⑤登校自習、⑥自宅で過ごす、の六つの選択肢の中から選択する形となった新しいウィンターコースを実施しています。さらに昨年度から高一・高二の希望者を対象とした探究活動を開始、今年度も先生方が開いた二十五の研究室で活動が始まっています。また、例年通り五月から六月にかけてキャンプ活動や自然研修も実施され、自然を十分に満喫し、無事終了することができました。さらに七月下旬から英国研修が、イートン校・ハロウ校で実施されます。本校での様々な教育活動を通して、自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する、すなわち自律する力を身に付けて欲しいと願っています。

昨今、学校説明会への参加者数の安定が中学入試の受験者数の安定に繋がっていることは有難いことだと思えます。今後も、教科指導、生活指導、進路指導の全てにおいて目の前の生徒を大切に、一人一人に寄り添っていくという本校の基本的な姿勢を着実に実践していきたいと考えています。